

# 月刊 やちまなこ

2026. 2.15 発行

No.339

## 2月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



### 釧網本線

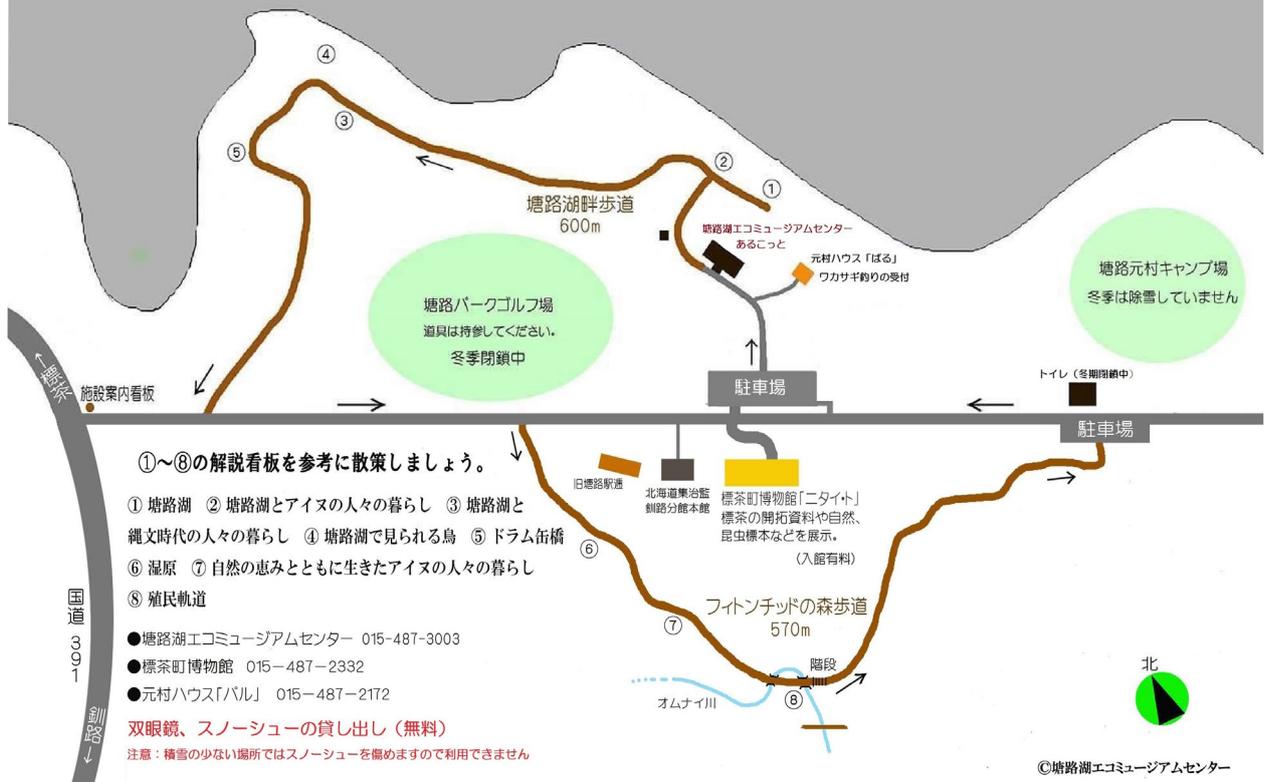
釧路～網走間を結ぶ 166.2 km の鉄路。大正時代後期に着工が決まったが釧路側は湿原のため工事が難航し、釧路から標茶に達したのは昭和 2 年（1927）。昭和 6 年（1931）に全線開通し、太平洋とオホーツクがつながった。開通時には釧網線を名乗り、昭和 11 年（1936）に釧網本線となった。湿地帯の地盤をなるべく維持するために釧路湿原を走る速度はあえて低くしている。

来年は釧路～標茶間の開通 100 周年。

湧水などにより、氷の薄い部分がありますので

散策には注意してください。

## 塘路湖



## 塘路フィールドノート【1/15~2/14】

### 【野鳥】

今シーズンは例年になく雪が少ないが寒波は長く居座る傾向。厳冬期の晴天率の高さもあり青空に野鳥が良く映える。気温の低い早朝は鳥たちもじっとしている。



オオワシ (シラルトロ湖)

冷泉橋付近でよく見かける個体。カラスとコミュニケーションを取っている? タカ科



オジロワシ (塘路湖)

ワカサギ釣り客のテント近くに飛来。おこぼれでも狙っているのだろうか。タカ科



オオハクチョウ (シラルトロ湖)

凍結した湖面でキツネ (または撮影者) を警戒して助走をつけて飛び立った。カモ科



タンチョウ (シラルトロ湖)

親子と思われる3羽 (中央が幼鳥) が氷上で休憩。時折鳴き声を上げる。ツル科



コゲラ (サルポ周辺)

目的の木があれば人がいても近くに寄ってきて逃げずにエサ取りに夢中。キツキ科



アオサギ (塘路湖)

氷上で同じ方向を向いてたたずむのがよく見られる光景になりつつある。サギ科

## 【植物】

春に一齐に緑の葉を出してくる植物だが、この時期は氷点下20℃を下回る気候に耐え続けることを強いられている。強風の影響で倒木もあちこちに見られるが、その後太陽光をめぐる植物の生存戦略が発揮されることになる。



ハンノキ (榛の木)

冬でもぶら下がっている果実はベニヒワやマヒワなどの小鳥の貴重な食糧。カバノキ科



ミズナラ (水楢)

落葉樹のはずが強風を常に受ける場所では、落葉せずに抵抗する葉たち。ブナ科



ヤチボウズ (谷地坊主)

少雪で埋まらずに頭が出ている。開拓時代には坊主切ぬるものも生まれた。スゲ属

## ◎塘路湖水上市ノースューハイイク開催！！

1月17日(土)、全面結氷した塘路湖の氷上をスノーシューで歩くイベントを実施しました。氷丘脈(御神渡り)をゴール地点とし、その不思議な造形と、塘路湖に点在するアイヌ時代のチャシの地形を観察するのが目的。

やや薄曇りの空の下、スノーシューを装着して結氷した塘路湖畔に下り出発。スタートして20分ほど歩くとワカサギテントの近くにたたずむオジロワシ姿を発見。広い氷原エリアに出ると氷の下から発する亀裂音の音量にやや興奮しながら歩みを進めます。途中アイヌ時代のチャシ跡の位置と役割を説明しながらさらに氷上を進むと出発からちょうど1時間で氷丘脈(御神渡り)に到達。今シーズンは高さが十分あり蛇行して割れた氷のせり上がりの大きさに圧倒された様子。



参加者 11名

## ◎塘路湖の氷丘脈(御神渡り)2026

今シーズンも出現して一安心といったところ。しかも2カ所に。一つはセンターから近くのキャンプ場前から対岸まで。ワカサギ釣りが見物する人々もちらほら。もう一つは例年できる中央付近でなかなかの規模でせりあがっている。この自然の造形がシーズン中に雪に埋もれることなくその姿を見せ続けてもらいたいところ。



キャンプ場前



塘路湖中央付近

## ◎シラルトロ湖・蝶の森スキーハイク開催しました！！

2月7日、これぞ道東という快晴の下、茅沼蝶の森からシラルトロ湖をめぐるイベントを開催しました。

今シーズンからの試みで、スノーハイクという裏面にシールが付いて踵が上がる短いスキーでトレッキングです。慣れないスキーアイテムに悪縁苦闘しながらもシラルトロ湖を左側に見ながら森の中を歩き、昭和初期の炭焼き小屋の遺構であった窪地を通過してシラルトロ湖へ降り立ちました。

広大な雪原となった湖を移動し、夏シーズンには歩くことが不可能な湿原の植生とヤチボウズ群を通過して陸地へ戻り、樹林帯を抜けてゴール。快晴のトレッキングを十分に楽しめたイベントでした。参加者9名



## 3月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

### 晩冬の塘路湖の氷上を歩こう

[日 時] 3月7日(土) 10時～12時

[定員・参加料] 10名 参加料 無料

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### 温根内の歴史を探訪しよう

[日 時] 3月15日(日) 10時～12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで  
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 1/15(6:50,16:10). 1/31(6:38,16:31).2/14(6:21,16:50)

～指導員の独り言～

■非日常的な風景を見たとき、人間の脳内ではドーパミンが分泌されて感動という形で興奮させる。アフリカで誕生してわずか数万年で、ほとんどの大陸に進出した人類の原動力こそがこの『感動』というものらしい。見たことのない風景を探して森の中や水辺の湿地帯を歩きながら、人々を連れて来たらドーパミンが出る場所を目的地とする。時にはヒグマにおびえながら、また時にはスズメバチに刺されながらイベント候補地を固めていくのだ。2026年の所信表明「歩いて歩いて歩いて、歩いて参る所存でございます」。

ホントか？

(M)

### 釧路湿原国立公園

#### 塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL : 015-487-3003 FAX : 015-487-3004

E-mail : emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram

開館時間：10：00～16：00

(4～10月：17：00まで)

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料